



日本三大練り供養の一つ。春の訪れを告げる長い行列

### 誕生寺二十五菩薩練供養



指定区分	県指定重要無形民俗文化財
読みかた	たんじょうじにじゅうごぼさつねりくよう
所在地	久米南町里方(誕生寺)
指定年月日	昭和30年3月18日
解説	毎年4月の第3日曜日に行われる浄土宗開祖、法然上人の父漆間時国と母を供養する伝統行事。室町時代から続いている。会式(えしき)ともいわれる。誕生寺本堂を“極楽浄土”に、門前300mに位置する境内の娑婆堂を“現世”にたとえて、信徒代表が仮装した二十五菩薩が天童(お稚児さん)を従えて、娑婆堂に安置されている法然上人の両親の像を輿に乗せ本堂へお迎えするという設定の厳粛な儀式である。
アクセス方法	JR誕生寺駅から徒歩約10分
公開状況	4月第3日曜日
設備	法要当日の駐車場は警備員により指示があります。 駐車場  トイレ 
備考	

## きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定重要無形民俗文化財
ぶんかざいめい (文化財名)	誕生寺二十五菩薩練供養
よみかた	たんじょうじにじゅうごぼさつねりくよう
しょざいち (所在地)	久米南町里方(誕生寺)
していたひ (指定した日)	昭和30年3月18日
せつめい	<p>浄土宗(じょうどしゅう)を開(ひら)いた法然上人(ほうねんしょうにん)の両親(りょうしん)を供養(くよう)するために続(つづ)いている行事(ぎょうじ)です。「会式(えしき)」ともいわれています。25人の菩薩(ぼさつ)さまに仮装(かそう)した信者(しんじゃ)たちが天童(てんどう)とよばれる子どもたちと一緒に(いっしょ)に、誕生寺(たんじょうじ)の本堂(ほんどう)から、およそ300メートル先の境内(けいだい)まで往復(おうふく)します。これは、法然上人(ほうねんしょうにん)の両親(りょうしん)を極楽浄土(ごくらくじょうど)へお迎(むか)えする様子(ようす)をあらわしています。</p>